

事例1

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代女性。慢性腎不全、低栄養、解離性大動脈瘤で大動脈弁置換術後の患者。
- ・ 死因は、低酸素血症による多臓器不全。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。
- ・ 人工呼吸器管理下で気管挿管の長期化により、手術室で気管切開術 (切開方法は不明) を施行。気管壁と皮膚の縫合無。気管切開チューブと皮膚の縫合固定有 (気管切開チューブの上下 2 か所)。
- ・ 逸脱当日の人工呼吸器設定 : SIMV[※]、FiO₂0.35、自発呼吸有。
- ・ 気管切開術 12 日後、集中治療室で体位変換を実施した際に、気管切開孔から気管切開チューブのカフが見え、気管切開チューブが右側に傾いたため、位置修正を試みたが気管切開孔から出血。最終的に気管切開孔より気管切開チューブを再挿入したが、低酸素状態となり、逸脱後 7 日目に死亡。

※ SIMV : 同期型間欠的強制換気